

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090200058
法人名	株式会社 すずらん
事業所名	グループホームすずらんの家 <span style="float:right">ユニット名 すみれ</span>
所在地	福岡県北九州市若松区大字畠田25-1 すずらんの家
自己評価作成日	平成24年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年11月20日	評価結果確定日	平成25年1月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の風光明媚な景色が見渡せる高台に立地し、広大な敷地にゆったりとした造りの建物でホールを中心に広い居室が機能的に配置されている。広々とした生活空間をいかして四季折々の行事で楽しい時間を過ごしています。近隣の高校から体育祭や文化祭へ招待されたり、クリスマス会に吹奏楽部の参加があったりと交流を深めています。ボランティアの来設も定着しており、傾聴ボランティアでは馴染みの関係が築いています。利用者様の精神安定に努めてもらっています。ご家族には毎月すずらん新聞を発行し予定をお知らせしています。行事の参加を促す事でホームへより多く立ち寄りいただけるように働きかけています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台にある複合施設(デイサービス・ケアプランセンター・有料老人ホーム)の2、3階部分に位置し、ゆとりある広さの生活空間と眺望の良さが特徴的な3ユニットのグループホームである。自然環境に恵まれている反面、地域との気軽な交流は難しい面もあるが、近隣の高校との継続した交流や、自治会に加入し、町内会の会合に出席する等、地域との関係性を積み重ねている。また、管理者、職員は、家族との連携も活かしながら、個別の地域性(馴染みの場所等)や関係性の継続に向けて積極的に取り組み、つながりが途切れないように支援を行っている。長期に入居されている方も多く、施設周囲を囲むベランダを活用した歩行訓練や、暮らしの中での機能維持・活用に向けた取り組みを介護計画にも具体的に盛り込み、医療との連携を密に図りながら、安心して暮らし続けることが出来るよう、環境作りに努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果				
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を見るところに貼り日々の業務にあたっている。	独自の介護理念のもとに、実践に向けた基本方針が具体的に示されている。ユニット会議や管理者会議の中で、再確認を行い、共有を図っている。現在、理念の再構築を検討している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の高校と交流があり体育祭や文化祭に招待され参加している。ボランティア活動で地域の方が来所し交流がある。	自治会に加入し、副施設長が会合に参加している。近隣の高校との交流が継続しており、体育祭では席を用意していただいたり、ブラスバンド部や陸上部の訪問を受けている。また、区内の高校より、五平太囃の披露や茶道部による茶会も予定されている。運営推進会議では、地域の避難場所としての検討も行われており、地域拠点としての活動展開が大いに期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が傾聴ボランティアで来所し利用者様と話をし認知症の人の理解を深めている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者様、家族、民生委員、地域包括センター職員が参加し意見交換をしている。	定期開催される運営推進会議には、家族や民生委員(2名)、地域包括支援センター職員の参加を得ており、各ユニットより、数名の入居者の方が参加している。状況報告や災害対策について意見交換を行い、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域の民生委員の方が参加し話し合い、連絡をとっている。	運営推進会議や、区役所にて開催される地域密着型サービス事業所ネットワークの活動を通じて、地域包括支援センター職員との情報共有や意見交換を行っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。学習会やミーティングで話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会、及び安全管理委員会が発足している。毎月、委員会を開催し、ケアのあり方について職員の意識を高め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議の中でも、想定されるリスクについて話し合いが行われる等、関係者との共有認識を育んでいる。エレベーターやベランダの出入りについても、特別な制限は行わないようにしている。

福岡県 グループホーム すずらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会にてテーマに取り上げ職員同士話し合い注意をしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用している方がいる。職員の理解度が高いとはいえない。今後、学習会を行いたい。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、成年後見人や関係機関との連携を図り、支援を行っている。また、資料を整備し、情報提供を行えるよう取り組んでいる。	制度の意義や理念について、研修の機会の確保や、家族や地域に向けた積極的な情報提供等、関係機関との連携や運営推進会議を活用しながら取り組むことも検討してください。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は契約書、重要事項説明書にて十分な説明を行い理解・納得に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者様、家族に参加を促している。会議で意見を聞けるようにしている。又、ご意見箱を設置しつつでも意見が聞けるようにしている。	運営推進会議に入居者の方が参加する機会も多く、家族が参加しやすいよう日曜日に開催した経緯もあった。毎月、「すずらん新聞」を発行し、活動報告や行事予定を伝え、情報共有に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談やミーティングの場で意見や提案を聞く機会を設けている。	全体での定例会議やユニット会議、個人面談の機会を設け、職員の意見や要望の収集に努めている。風通しの良い職場環境を目指し、職員の主体性の発揮を求めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課で昇給や賞与がある。資格手当があり試験受験の際は支援金がある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用で性別、年齢を理由に採用を対象外にはしていない。現在働いている職員の意見を聞き入れ反映できるように配慮している。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行わないようにしている。人事考課制度を新たに取り入れ、個人面談や目標設定をもとに評価を行い、処遇面への反映やモチベーションの確保に取り組んでいる。また、資格手当や受験の際の支援金の支給等、スキルアップへのサポートも行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に対するマニュアルがある。ミーティング、学習会で話し合っている。	倫理・法令遵守や高齢者虐待防止、プライバシー等の研修実施や、毎月開催される身体拘束廃止委員会での活動を通じて、人権教育、啓発に努めている。	

福岡県 グループホーム すずらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な講習会や研修には参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所とのネットワークがある。定期的な交流がある。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人のニーズや状態を把握できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談時は話をしっかりと聞いて気持ちを受け止めて信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を決める前に体験入居を実施している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動を行える利用者同士で職員とも一緒に行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様状況は月に1回手紙で伝えている。何かあればその都度電話かFAXで家族へ連絡している。本人の必要な物、外出希望など伝え家族の協力を得ている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人や教え子の面会がある。その後、家族に面会があった事を伝えている。	昔の職場の同僚や教え子の訪問、馴染みの市場までのドライブ、馴染みの美容院の利用、結婚式への参加、地域の神社への初詣等、これまでの暮らしの中でつながりが途切れないよう支援している。	

福岡県 グループホーム すずらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士で近くに座るよう誘導して、トラブルなく過ごせるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族からその後の連絡がある。状況に応じて相談、支援する体制がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の意思決定にそえるよう努めている。	日常の中での、言葉や表情、行動等から、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、職員間での共有や検討に努めている。気づきや情報を共有し、個人の暮らしや認知症ケアに活かしていくためにも、様式の工夫や充実が期待されます。	記録の記載状況から、職員の日々の奮闘振りがうかがえる。1対1になれる場面づくりや、支援の根拠となる気づきや情報をもとに協議を行うためにも、アセスメント様式の充実や職員体制の工夫等を検討していくことが望まれます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に生活歴など細かく聞くように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせて出来る事はなるべく自分で行ってもらうようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、訪問看護師、訪問歯科医などの意見も聞いてモニタリングを行っている。介護支援経過チェック表の活用、なかなか面会にこれない家族には電話で意見を聞くようにしている。	支援経過チェック表による日々の確認や定期的なカンファレンス、3ヶ月毎のモニタリングを通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。個別の機能維持・活用に向けた具体的な支援についても示されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報共有は連絡ノートを活用している。		

福岡県 グループホーム すずらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3ユニットでの合同レクやデイサービスでのボランティアによる催事に参加している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、消防、若松商業高校と協力体制ができています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望を優先している。	これまでのかかりつけ医への受診については、家族対応を基本としている。また、定期的な協力医による往診や訪問看護、歯科往診等の体制を整備し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護がある。1週間の体調変化など伝えている。訪問日以外でも電話で助言、指示をもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き担当看護師から状態を聞くなどしている。退院にむけての体制づくりはソーシャルワーカー、家族と連絡をとりスムーズにいくように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に主に家族には説明を行っている。必要時は医療、介護、家族、関わっている関係者と取り組んでいく体制がある。常時医療処置が必要になった方がいたが家族、医療関係と連携し話し合いで転院した。	入居の際に、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての方針を説明し、意向確認、及び同意を得ている。状況の変化に伴い、家族や医師、訪問看護事業所との話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送があったが、利用者対応、家族連絡、搬送先病院の受け入れ体制、救急要請とスムーズにできた。新人にもマニュアルや事例を話落ち着いて行動するよう指導している。		

福岡県 グループホーム すずらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施し、参加している。	年2回、消防署との連絡をとり、夜間想定や、出火場所の想定を変更しながら避難訓練を行っている。運営推進会議の中で災害対策について意見交換を行い、地域の避難場所としての活用も視野に入れている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいに気をつけている。定期的に各自が自分の行動について考えるようにしている。	その方にとっての時間の流れや居場所、生活習慣の継続等を意識し、尊重できるよう支援を行っている。排泄ケアや入浴時には特に留意し、羞恥心やプライドへの配慮を心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように、分かりやすい声かけ等を工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度1日の流れが決まっており、その中で本人のペースに合わせた対応をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の組み合わせや理容、美容の日はヘアスタイルを提案している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じ食卓で一緒に食事をし、メニューを説明したりしている。利用者に合わせて、食べやすいようキザミ食や、使いやすい器で自力摂取を支援している。	炊飯はホームで行い、1階の法人厨房より、栄養バランスや食事形態に配慮された食事が提供される。個々のペースを尊重しながら、ゆっくりとした食事風景があり、後片付けを役割として担っている方もおられた。月1回程度、ユニットでの調理の日を設けたり、外食の機会も設け、普段とは違う雰囲気を楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調に合わせたカロリー、主食量で栄養バランスに配慮している。食事量、水分量は記録している。		

福岡県 グループホーム すずらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に応じて義歯の手入れ、舌ブラシのかつようでケアを行い清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導でトイレでの排泄を促している。	チェック表を用い、個別の間隔やパターンの把握に努めている。また、表情や行動等のサインを見逃さないよう心掛けながら、さりげない声かけや介助を行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給と毎日の運動、歩行練習を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後3時～5時位が入浴の時間になっているが時間は希望があれば夜7時30迄なら対応可。	毎日、入浴準備を行い、希望や体調、状況等により柔軟な対応に努めている。浴槽につかることを大切し、必要に応じて職員2名体制での支援を行っている。19時30分までの対応が可能となっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて寝具の調整を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を入れている。その都度確認出来るようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からお菓子やジュースの差し入れを預かっており、少しずつ提供している。家事の好きな方には食器洗いを日課とし役割をもってもらっている。		

福岡県 グループホーム すずらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回外出レクを行っている。家族と外出される方もいる。自立の方は施設周辺の散歩を実施している。	ホームは2、3階部分に位置しており、建物外周を囲む広いベランダでは、気軽に日光浴を行ったり、目標を立てながらウォーキングも行われている。月1回の外出行事を企画し、散歩やドライブ等、個別の外出支援も行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持はしていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけて話をしてもらっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床のマットを食卓とリビングでかえて分かりやすいようにしている。夏場はベランダによしずをたてて季節感をだしている。	高台に位置していることから眺望も素晴らしく、開放的な、ゆとりある広さの共用空間が印象的である。食卓テーブルやリビングのソファー、ユニット間の談話スペース等、くつろげる場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内では各自ソファの決まった場所に座り過ごされているが食卓、壁側のソファなど好きな場所で過ごされる方もいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望に応じ使い慣れた家具や好きな物を持ち込んでもらい生活しやすいように工夫している。	天井部分まで大きくとられた窓が、開放的な空間を印象付けている。テーブルや椅子、ソファー、テレビが持ち込まれ、それぞれの方にとっての居室作りが行われている。自宅より、入居前に作成された見事な作品が持ち込まれ、掲示されている居室もあり、毎月、家族の協力により入れ替えも行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な部分には手すりが付いている。安全に過ごせるように環境整備に努めている。トイレや浴室、自室にはプレートをつけて分かりやすいようにしている。		